

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-60	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・709	高等学校 現代の国語		

<h2>1. 編修の基本方針</h2> <ul style="list-style-type: none"> ● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。 ● 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。 ● 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。 ● 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。

<h2>2. 対照表</h2> <table border="1"> <thead> <tr> <th>図書の構成・内容</th> <th>特に意を用いた点や特色</th> <th>該当箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">読解と論述</td> </tr> <tr> <td>■論理的ということ</td> <td>言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自立の精神を養えるようにした。(第2号)</td> <td>p. 14～p. 19</td> </tr> <tr> <td>対比の構造</td> <td>対比構造について学習できる三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号)</td> <td>p. 20～p. 37</td> </tr> <tr> <td>一般論と主張</td> <td>常識とされている一般論とそれに対する主張が示された三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号)</td> <td>p. 38～p. 59</td> </tr> <tr> <td>論理とレトリック</td> <td>人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)</td> <td>p. 60～p. 67</td> </tr> <tr> <td>実用の文章</td> <td>実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)</td> <td>p. 68～p. 83</td> </tr> <tr> <td>具体と抽象</td> <td>具体と抽象の関係について学習できる三つの文章</td> <td>p. 84～p. 107</td> </tr> </tbody> </table>	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所	読解と論述			■論理的ということ	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自立の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 14～p. 19	対比の構造	対比構造について学習できる三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号)	p. 20～p. 37	一般論と主張	常識とされている一般論とそれに対する主張が示された三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 38～p. 59	論理とレトリック	人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)	p. 60～p. 67	実用の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 68～p. 83	具体と抽象	具体と抽象の関係について学習できる三つの文章	p. 84～p. 107
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所																						
読解と論述																								
■論理的ということ	言葉が持つ価値と、言葉の使い手である自身について認識を深め、個人の創造性や自主自立の精神を養えるようにした。(第2号)	p. 14～p. 19																						
対比の構造	対比構造について学習できる三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号)	p. 20～p. 37																						
一般論と主張	常識とされている一般論とそれに対する主張が示された三つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号) 多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけることの重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 38～p. 59																						
論理とレトリック	人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)	p. 60～p. 67																						
実用の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	p. 68～p. 83																						
具体と抽象	具体と抽象の関係について学習できる三つの文章	p. 84～p. 107																						

	<p>を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号)</p> <p>人と自然の共生における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)</p>	
比較する	<p>現代社会の問題について異なる視点から述べられた二つの文章の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。(第1号・第3号)</p>	p. 108～p. 127
視野を広げる	<p>科学・文学・言語といった文化と人間との関係について理解を深められるようにした。(第5号)</p> <p>命は自分のものか否かという、正解のない問題に取り組むことで、生命倫理について考察を深められるようにした。(第4号)</p> <p>現代社会の問題点を理解し、そこで求められる責任や他者を敬い協力することの重要性について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした(第2号・第3号)。</p>	p. 128～p. 153
思考を深める ー関連づけて読む	<p>時間についての考え方を述べた二つの文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。(第1号)</p>	p. 154～p. 171
実用の文章	<p>実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)</p> <p>SDGsに関する活動を通して、自国と他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することの重要性について考えを深められるようにした。(第5号)</p>	p. 172～p. 188
表現の実践		
話し言葉の技術	<p>自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした(第3号)</p>	p. 190～p. 193
書き言葉の技術	<p>自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)</p>	p. 194～p. 205
言語技術の実践	<p>調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。また、グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。(第1号・第3号)</p>	p. 206～p. 222
資料編・見返し		

<p>評論キーワード</p>	<p>主に論理的文章・資料などで用いられる言葉について、その意味やつながりを知ること、抽象的かつ論理的な思考を深め、自国および他国の文化・社会への理解と国際社会への発展に寄与する態度を養えるようにした。(第1号・第5号)</p>	<p>p. 224～p. 239</p>
<p>見返し</p>	<p>各題材に関連した資料などを通して、より学習の理解を深め、幅広い知識と教養を養えるようにした。また、実社会でも必要とされる情報探索の方法を知ること、主体的に学ぶ姿勢を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)</p>	<p>前見返し 後見返し</p>

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、教材に関連したテーマの理解を深めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるような「解説」(コラム)を随所に掲載した。
- 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-60	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	現国・709	高等学校 現代の国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 全体

- ① 「読解と論述」「表現の実践」「資料編」の3編で構成した。「読解と論述」「表現の実践」においては、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ② 「チェックポイント」コーナーを設けて、文章を読んだり書いたりする際に身につけておきたい知識・技能を解説した。

チェックポイント「3」

接続語

1 接続語に注意して読む

文章を読む際には、文脈に沿って言葉の意味を確認することに加え、文と文とのつながりや段落どうしのつながりに注意することも大切だ。これらがどのような論理関係にあるかを確認しながら読もう。

論理関係をとらえるには、接続語に注意して読むとよい。接続語の種類には、下表のようなものがある。

「わらしべ長者」が……：解釈されるのは大変残念なことだ。
なぜなら、「わらしべ長者」は……：話だからだ。
〔「わらしべ長者」の経済学〕

2 接続語に注意して書く

文章を読むときだけでなく、文章を書くときにも接続語に注意しよう。一文を書いた後、次の文を続けるとき、どのような接続語を使えば、自分の考えが正確に伝わるかを考えながら書くことが大切である。

チェックポイント「1」


指示語

1 指示語の働き

会話や文章の中では、ある物事や内容別の言葉で示されることがある。その代表的な表現として指示語がある。指示語とは、話し手と聞き手の関係を基準にして物事を示す動きをする語で、主として左の表のようなものがある。語の最初に、「こ・そ・あ・ど」がつくため、「こ・そ・あ・ど言葉」とも呼ばれる。指示語の使い方は、目の前のものを直接に指す場合と、話している話題の中の何かを指す場合がある。

指示語の例

こ～	これ、この、こう、こんな
そ～	それ、その、そう、そんな
あ～	あれ、あの、ああ、あんな
ど～	どれ、どの、どう、どんな



どのファイルですか。これです。ここに置いてください。

- ③ 発表したり話し合ったりする活動を通して、教材のテーマについて理解も深めることができる「ズームアップ」コーナーを設けた。

ズームアップ

+

文化

1 文化と文明

文化と文明は同じように用いられることもあるが、実は意味が異なる。「文化」は言語や暮らし方など人間が作り出したものの総称で、中でも芸術や哲学といった精神面の活動を指すことが多い。文化は、固有の社会や地域に根ざして発生し、継承されてきた。一方、「文明」は、生活を豊かにする技術や物質的なものを指し、地域を越えた広がりを持つ。例えば「大阪のお笑い文化」とは言うが、「お笑い文明」と言うことはない。

2 日本の文明化と文化

幕末の黒船来航以降、西洋の列強諸国に対抗するために、西洋を模倣した「文明化」を果たすことが、日本にとって第一の目標となった。例えば、鹿鳴館で社交ダンスに興じる洋装の日本人たちの絵を見たことがあるだろう。明治の日本において文明化とは西洋化・近代化のことであり、それまでの伝統的な日本文化は乗り越えなければならない対象となったのである。そのような状況が続いていたが、和辻哲郎は一九三五年刊行

言語活動

自分の住む地域あるいは自国の文化は、今後どのようにあるべきだと考えるか。グローバル化の結果身近にあるものや比較しならぬ話してみよう。

関連書籍

- 和辻哲郎 『風土』 比較文化論の先駆け。モンスーン・砂漠・放牧という風土の類型を設定し、日本のみならず、世界の各地の民族や文化社会の特質を論じる。
- 作田啓一 『船の文化再考』 ベネチアの「西洋社会は誰の文化、日本社会は誰の文化」という比較論に対し、日本人には内面的な「差船」という特性もあるとした日本文化論。
- 佐伯啓思 『倫理としてのナショナリズム』 副題「グローバリズムの虚無を超えて」の通り、グローバリズムに対抗して、文化的自覚を持つための倫理や規範、ナショナリズムの価値などを説く。
- 加藤周一 『日本文化における時間と空間』 日本文化について、「時間」「空間」「時間と空間との相関」という観点から考察する。豊富な具体例をもとに、「日本文化の「今ここ」」に生きているという独自性を明らかにする。



④ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

探究の扉
 —— 比べ読み ——

次の文章を、《絵を前に思いをめぐらす》との共通点を意識しながら読んでみよう。

単純と複雑

齋藤亜矢

① 葛飾北斎に『三体画譜』という絵手本集がある。人々や動物、植物、風景などを真・行・草の三体で描き分けたものだ。真は写実的に、行は少し崩して、草はさらに崩して描いたもの。この順に筆数が減り、単純化されている。真は極細の筆で細部の線の一本一本まで描きこまれ、図鑑のように詳細がわかる。草でもそれ

① 葛飾北斎（1733～1818）。江戸時代後期の浮世絵師。代表作に『富嶽三十六景』がある。

② 真・行・草 漢字の書体の、真書（楷書）・行書・草書のこと。転じて、華道や絵画、庭園などの形式にもいう。

探究の扉 —— 比べ読み ——

次の文章は、政治学者の宇野重吉と『政治的思考』の筆者の考えと共通

未来をはじめ

宇野 政治って面倒くさくない？ たどえばクラスで修学旅行先を決めるときだって、みんな積極的に意見を言うかな、それよりも下を向いてスマホを見て、ポチッと押し投票した方が簡単じゃないですか？

全員（激しく頷く）

Aさん 顔を見て話し合うのが大事とは思いますが、どうしても毎回意見がぶつちやうっている。あんまりぶつちやういなら、携帯使った方がいいかも……。

宇野 みんなの意見が最初から同じなら、政治なんていらないうね。どう見ても違う意見があるし、必ずしも懸

⑤ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 読解と論述

・ 現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。

ウェイソンのテスト

表面にA・D・3・6と書かれたカードがある。

これらのカードには、「一方の面が母音のカードは、必ず裏が偶数」という法則があるとす。この法則が4枚のカードにおいて成り立っていることを示すためには、どのカードを裏返して確かめたらよいか。

A

D

3

6

を確かめてみなくてはいけないのです。ところが、人間は刺激等価性のために、「BならばA」だと思いついてしまいます。すなわち、「一方の面が偶数のカードは、必ず裏が母音」だという関係があると勘違いして、6のカードをめぐってしまいます。人間はある意味、他の動物よりも非論理的なのです。

刺激等価性は共感能力の高さと関連しているのかもしれませんが、Aという刺激とBという刺激を自動的に等価と見なす心理は、他人の心を自分の心と同じように感じたり、アニメの中の絵を実物の人間と同じように感じて感情移入したりする心理と似ています。

また、「Aが成立するならば、必ずBが成立する」という法則がある時、「Aが成立する」確率よりも、「Bが成立する」確率の方が大きくなります。なぜならば、「Aが成立しなくてもBが成立する」場合

法律の文章や宣伝の文章など、社会の中では、何かの目的を達成するために書かれた、実用的な文章に接することも多い。

「条例」は、法のうち、地方公共団体が定めるもので、その地方公共団体だけに適用される「まわり」を指す。条例の内容をその地域の人々に周知するためにパンフレットが作成されることもある。

ここでは、条例文（部分）とその内容を説明したパンフレットを読み、それぞれ表現上の特徴について考えてみよう。

ステップ1
 次の「条例」本文の「基本理念」と、それに基いて作成された下の「パンフレット」を読み、文体や表現上の特徴を比較してみよう。

基本理念

基本となる考え方

この条例では、共生社会をつくるための取組を進める上での基本となる考え方を定めています。

- 1 障害のある人みんなに、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されること
- 2 障害のある人みんなに、可能な限り、どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会で共生することが妨げられないこと
- 3 障害のある人みんなに、可能な限り、意思疎通の手段についての選択の機会が確保され、さらに多くの機会が与えられること
- 4 障害のある女性などが、性別や年齢などと障害との複合的な要因で、特に困難な状況に置かれた場合、状況に応じた適切な配慮がなされること
- 5 障害や社会的障壁（バリア）の問題が、市民みんなの問題として認識され、理解が深められること
- 6 共生社会をつくるための取組は、市、市民、事業者などみんなが協力して行われること

・読解力と表現力を効果的に身につけられるよう、「読む」と「書く」ことの学習内容を関連付けて単元を構成した。

【対比して書く】

「政撃」と「共存」の「言語活動1」で話し合った内容を踏まえて、次の表を参考に「政撃」について話し合おう。

例1 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

① 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

【例】 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

② 資料を調べる

1 特徴について、具体的に説明するために、書籍やインターネットで情報を求める。インターネットで調べる場合は、信頼性の低いもの（個人のブログ、作者が不明な情報など）は使用しないようにする。

2 調べた情報を整理して内容をまとめる。

例2 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

③ 議論の本質：議論の構成で書く

【例】 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

④ 議論の本質：議論の構成で書く

【例】 日本と西洋の、花に対する考え方の違いについて

「政撃」と「共存」= 36

私の中にある生命の歴史

中村 桂子

地球上にいるすべての生き物の祖先は、ある一つの細胞と考えられます。海の中で生まれた細胞が「進化」をし、多細胞化して植物や動物になり、動物の中で骨が硬くられて魚になった仲間から陸上がったのが両生類、鳥類、哺乳類となり、そして人間になった。昆虫の仲間も大事ですね。このように生き物は、みんな共通の祖先を持っているのです。枝を歩いているアリの、三十八億年前からずっと続いてきて今の姿になった。皆さんのお父さん、お母さん、おばあさん、おじいさん、おばあさんから受け継いでいるはず。そうしてたどり着けば、誰もが人類の祖先になるわけですね。さらにDNAを解析していけば、人類の祖先からもっと遡ることができて、最終的には三十八億年前の最初の生命に遡るのである。

時間をかけてできあがってきた自然界は生き物のように思いませんが、この考え方を「生命論的世界観」と言います。三百年も前の科学は「機械論的世界観」で進められてきました。でも、どうも「生命論的世界観」の方が実態に合っていると考えられるようになってきました。

① パラリアリア (Paralithalia) (英) ② DNA 生物の細胞内で遺伝情報を伝えるデオキシリボ核酸の略称。

【対比の構造化】

対比は、「二つの事物(比)と二つの属性(比)」の対比で構造化する。ここでは、植物の祖先と動物の祖先の対比を対比して構造化する。

私の中にある生命の歴史 = 20

(3) 表現の実践

・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「読解と論述」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

情報の聞き取り方

1 「聞き取る」ために

文章と異なり、音声はその場で消えてしまう。情報を聞き取るには、訓練が必要である。つまり「聞き取る」ではなく「聞き取る」(hear)のためのトレーニングだ。その代表的なものに「スキミング」(大意をつかむ方法)と「スキヤニング」(具体的な情報を探査する方法)がある。

目標

▼目的に添って情報を聞き取る。

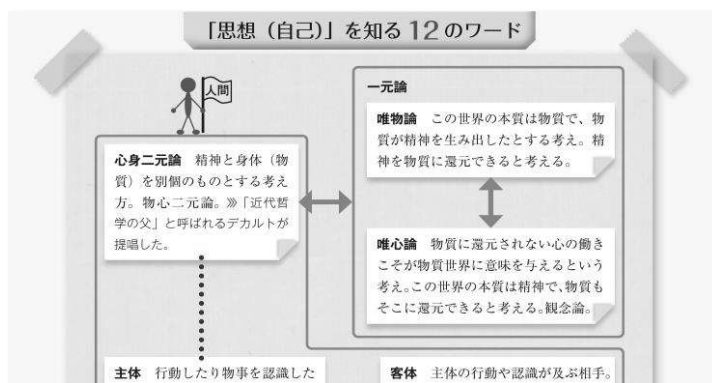
▼注意深く正確に聞く。

10



(4) 資料編

・論理的な文章や、実社会の具体的な場面で用いられる言葉について、その意味やつながりを知ること、抽象的かつ論理的な思考を深められるようにした。



2. 対照表

図書構成・内容		学習指導要領の内容							該当箇所 [頁]	配当時数				
単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等					話す・聞く	書く	読む		
		(1)	(2)	(3)	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと						C 読むこと	
		(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)				
対比の構造	論理的ということ	ウ・オ	ウ						ア	ア	14		1	
	評論の読み方		オ								19			
	私の中にある生命の歴史	オ							ア		20		1	
	水の東西	ウ・エ	イ						ア		22			
	【ズームアップ】文化	エ		ア	イ	ア					28	1		
	「攻撃」と「共存」	ウ・エ					イ・ウ	ア	ア		30		2	1
一般論と主張	【チェックポイント1】指示語	カ									37			
	「大人になる」ための条件	オ							ア		38			
	「わらしべ長者」の経済学	イ・ウ・エ			エ				ア	ア	40	1	1	
	ポスト・プライバシー	ウ・エ・カ					イ		イ	イ	48		2	1
	【ズームアップ】情報とメディア		エ	ア	ア	ア					56	1		
	【チェックポイント2】文脈の理解	カ									58			
論理とレトリック 実用の文章	【チェックポイント3】接続語	オ	ア								59			
	コインは円形か	ア・ウ・エ							ア・イ	ア	60		1	
	コミュニケーションの手段を考える	カ	イ		ア・イ・ウ	ウ					68	1		
	目的に合わせて表現を工夫する	エ					イ・ウ・エ	イ			72		3	
	資料を分析して考えをまとめる		エ	ア			ア・イ	ウ			76		4	
	根拠の妥当性を説明する		ア				イ・ウ				81		3	
具体と抽象	いま平和とは	オ・カ							ア		84			
	ものとことば	ウ・エ	イ						ア		86		1	
	【ズームアップ】どこにも蝶などいない	ア		ア	ア	エ					94	1		
	人と自然の共生とはどういうことか	ウ・エ	イ				ア・イ	ア	ア		96		4	1
	【ズームアップ】環境問題のこれから	オ		ア	ア	エ					106	1		
	【チェックポイント4】列挙		イ								107			
比較する	政治的思考	ウ・エ	ア						ア・イ	イ	108			
	【探究の扉】未来をはじめる		ア		イ	ア			イ		114	1		
	絵を前に思いをめぐらす	ウ・エ					イ・ウ	ア	ア・イ		118		1	
	【探究の扉】単純と複雑	ア	ア		ア	ウ			イ		123	1		
	【ズームアップ】芸術の価値とは	ア		ア	イ	エ					127	1		
	視野を広げる	科学コミュニケーション	ウ・オ	ア						ア・イ	イ	128		
【チェックポイント5】一文要約		オ	ア						ア		136		1	
命は誰のものなのか			ア				ウ・エ	ア	ア		138		2	1
【ズームアップ】科学と生命を考える		オ		ア	イ	ア					143	1		
【チェックポイント6】文末表現		オ									144			
【ズームアップ】自己と他者の理解とは		ウ・エ		ア	オ	エ			ア		145		1	
思考を深める	【ズームアップ】自己と他者の理解とは	ウ・オ	イ						ア		153	1		
	時間と自由の関係について	ウ・オ	イ						ア		154		1	
	時を編む人間	ウ・エ・カ	ア						ア・イ	ア	162		1	
	【ズームアップ】近代と時間の関係	カ		ア	イ	ア					170	1		
	【チェックポイント7】比較	ア									171			
	実用の文章	文章の構成を工夫して提案する		ア		エ		イ・エ	イ			172	1	2
課題を発見し解決策を発表する			エ		ア・イ・ウ	エ					177	3		
【チェックポイント8】文章構成		オ									182			
グラフ・実用文の読み方		エ	ウ・エ				イ・エ	ア			184		2	
話し言葉の技術	【聞くトレーニング】情報の聞き取り方	イ									190			
	【話すトレーニング】説得力のある話し方	イ									192			
書き言葉の技術	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ									194			
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア								196			
	【文章トレーニング3】比較する		ウ								200			
	【文章トレーニング4】論証する		イ・ウ								202			
	【文章トレーニング5】意見文を書く	オ	オ								204			
言語技術の実践	【実践1】レポート		エ・オ				ア・イ・ウ	ウ			206		6	
	【実践2】プレゼンテーション		エ・オ		ウ・エ・オ	イ					211	3		
	【実践3】ディベート・討議		エ・オ		イ・エ・オ	ウ					216	5		
資料編	評論キーワード	ア・エ								224				
配当時数合計		A 話すこと・聞くこと										24		
		B 書くこと											31	
		C 読むこと												15
		合計												70